

「未来への手紙」に3作品

来年3月11日 震災追悼式で紹介

県は17日、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故の記憶や教訓を受け継ぐため、県内の中学生から募集した「未来への手紙」の選定会を福島市で開き、来年3月11日に実施予定の追悼復興祈念式で紹介する3作品を決めた。

三つのテーマで作品を募集、過去最多1475点の応募があり、各テーマから1点ずつ選んだ。「未来へ伝えたい教訓」のテーマは森彩葉さん（南相馬市・鹿島中1年）、「将来の自分へのメッセージ」は石井琉生さん（田村市・都路中3年）、「将来の福島県への願い」は菅野明人さん（二本松市・岩代中3年）の作品が選ばれた。

選定会では、大学生や会社員らが選定員を務め、内堀雅雄知事に「中学生らしい明るく前向きなメッセージが込められているか」「復興に向けた県民の頑張りが伝わるか」などの観点で審査したと報告した。内堀知事は「皆さんのエネルギーを心に置いて、（追悼復興祈念式で）作品を紹介したい」と語った。

応募作品のうち、式で紹介される3点を含む15点は、東日本大震災・原子力災害伝承館（双葉町）で展示される。

将来へ伝えたい教訓

当時、私は産まれてすらなかった。だから、なにも分からない。でも、たくさんの人、物をなくした人がたくさんいる。だから、「わからない」はダメだと思った。今でも、ニュースや本などで大きな地震、津波で大切な人を失った人や家を失った人のことが載っていることがある。そんな方々がたくさんいる。大切な人、物を失ってもみんな支え合い、今でもがんばっている人がある。震災当時、大切な人が亡くなってしまった人もみんな励まし合い、協力していたことも聞いたことがある。大変な中で協力し合っている方々の絆がとても伝わってきた。私は実際に体験していない。でも日本の方には当時、あったこと、そしてみんなを支えた仲間の「絆」の大切さを未来へ伝えたい。

森 彩葉さん 鹿島中1年

将来の自分へのメッセージ

僕が生まれた6ヶ月ぐらいの時に、東日本大震災は起きた。0歳だったから当時の記憶は全くないけど、その時の様子や防災のアドバイスをよく聞かされた。①防災バックは家に置いておいたほうがいいよ。②電気やガスは消してから避難！③まずは自分の命。だけど周りの人との助け合いも大事。これからくる大地震に備えて、この事はちゃんと覚えておこう！それと、大人の僕は、自分の夢を叶えられているのかな？中学生の時の僕は、プロ野球選手を目指して毎日部活を頑張ってるよ！夢を簡単に諦めないで頑張ってるね！！最後に、福島県は復興を果たし、安心して暮らせる場所になっているだろうか？僕は、強く願っている。未来の福島に、浜中会津の三地方が笑顔いっぱいに溢れていることを！

石井 琉生さん 都路中3年

将来の福島県への願い

東日本大震災を学んで、僕は福島県に住む人々が経験した、深い傷や苦しみを改めて感じました。多くの人々がそれぞれの家や故郷を失い、原発事故による影響は今もお、続いています。だからこそ、僕は将来の福島県には「安心して暮らせる場所」であって欲しいとねがっています。福島県には、豊かな自然があります。そんな豊かな環境と共に生きている地域の人々が支えながら未来を築ける社会になれるはずです。福島県ならではの、美しい風景や文化を次の世代にも引き継ぎ、若者が希望や誇りを持って福島県の未来を築いていく。そんな誰もが笑顔で過ごせる復興のシンボルとなるように、過去の痛みを力に変え、輝く福島県の未来を心から願っています。

菅野 明人さん 岩代中3年

▲11月18日 福島民友新聞掲載

記事から知り得たこと

調べてわかったこと、考えたこと

疑問に思ったこと、調べてみたいこと

皆さんは、どのような「未来」を思い描き、そのためにどうしようと考えていますか？

